

XIV International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism, New York, September 9-12, 2001 : 2001.9.11 アメリカ同時多発テロの記憶

遠藤 溪

東邦大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌学分野（佐倉）



あれは2001年の3月ごろであったろうか。家でくつろいでいたところ突然、上司の白井厚治先生より電話で「今から病院に来てくれ。」と呼び出された。なにかと思ったら「秋にニューヨークで脂質関連の国際学会があるから参加しよう。今から抄録を作って応募するぞ。」とのこと、さらには締め切りはなんと数日後とのこと。致し方なく病院へ来るが、なぜか白井先生は居ない…。仕方なく書いたこともない英語の抄録に必死で取り掛かった。当時の自分は医師になって3年目が過ぎ、代謝グループに所属してやっと半年経った頃であった。その日はなんとかタイトルと抄録本文を数行書き、その後3日かけて書き上げ、締め切りには無事間に合った。もちろんこの時は半年後に起こる事件など予測もせずに…。

さて抄録は学会に無事にアクセプトされ、白井先生、同じグループの先輩である小崎 寛先生、大塚正毅先生と自分の4人で9月初旬に成田空港を飛び立った。13時間ほどでニューヨークのケネディ空港に到着。偶然居合わせた日本医科大学の及川眞一先生（第三内科の教授）と合流し、宿泊先兼学会場であるヒルトンホテルに向かった。

初めての国際学会 [XIV International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism (DALM), New York, September 9-12, 2001] は触れるもの何もかもが新鮮で、学会の雰囲気、ニューヨークの街並み、人々、レストランなどなど毎日が有意義であった。また驚いたのは日本人の学会参加が多かったことである。こんなに外を向いている人間がたくさんいるなんて…。シンポジウムや特別講演を担当されている先生も居たのである。しかし、しかし、何よりも驚いたのは白井先生である。学会場で見知らぬドイツ人のポスターをずっと見て、質問をしていたかと思ったら、なんと突然、そのドイツ人を自分のポスターのところ



2001年9月11日地下鉄ホーム



ニューヨーク内の料理店で白井先生と

へ無理やり連れて行き、レクチャーを始めたのだ。さすが白井先生…。

さてポスターの前に立っただけで良い発表も無事終

わり、あとは他人の発表を聞いているか、観光をしているかのどちらかであった。観光はブロードウェイでミュージカルを鑑賞。9月10日は一番楽しみにしていたメジャーリーグを観戦。しかもヤンキース対レッドソックスという黄金カードであった。しかし当日は雨。中止かと思い、球場に確認の電話をするが「中止ではない」とのこと。そこで意気揚々と球場へ。しかし“待てど暮らせど”一向に始まらない。何度も審判と監督（たしかヤンキースのトーリ監督）がグラウンドの状態をチェックし、結局予定時間から2時間ほど経ったところで何と中止に。その後、4人で「こんなこともあるさ」と夕食を摂り、「明日は学会場で会おう」と解散した。しかし白井先生を除く3人は、「せっかくだから明日は自由の女神と貿易センタービルに行こう」と約束し、床についた。

9月11日の朝、なんだかホテルが慌ただしい。英語がわからないので状況も読めずに貿易センタービルへ向かう地下鉄に乗ったところ、なんと一駅も行かないうちに止まってしまったのだ。次に動き出したのは3時間ほど経ってからであった。このとき一緒にいた他の客から貿易センタービルに飛行機が突入し、それがどうもテロであると聞かされたのだった。その後なんとかタイムズスクウェアまで地下鉄が動き、ようやく地下鉄を脱出。そしてなんとかホテルへ帰り、テレビを観て事の大きさを知ったのであった。その後は飛行機が飛ばないため、ニューヨークに予定より数日延長して滞在。その節はご迷惑をおかけした他の先生には本当に感謝している。こうして私の初めての国際学会は終了したのであった。9月11日の事件では日本人も多く亡くなられたと聞いた。改めてご冥福をお祈りいたします。